

# 永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.260 2023年9月3日発行

巻頭説教 「戦争の先にあるものは—平和を考える—」 横山厚志

そこでイエスは言われた。「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。」

(マタイ 26 : 52)

日本基督教団の教会暦では、毎年8月の第1日曜日を平和聖日としています。人間の歴史が始まって、おそらく戦争のなかった時はなかったと思います。いつの時代でも、どこかで戦争がありました。

イエス様の時代、ユダヤ人はローマ帝国の支配下にありました。ユダヤ人は自分たちには神の選民という意識があり、いつの日か必ず、この地上においてイスラエル王国をつくるのだと願っていました。この時に神は必ずメシアを送り、ユダヤ人を解放すると信じていました。イエス様の登場によって、そのユダヤ人の願いが強くなっていきました。多くのユダヤ人は、その神から送られるメシアをイエス様に期待したのです。イエス様のもとに集まった弟子たちも同じでした。

イエス様の十字架の時は近づいて来ました。イエス様の逮捕の場面になります。ゲッセマネの祈りの時が終り、裏切ったイスカリオテのユダが多くの仲間を連れて、イエス様を逮捕するためにやって来ました。イエス様が逮捕される場面になった時に、ペトロは自分が持っていた剣を抜き、敵に向かって行きました。大祭司の手下に打ちかかって、片方の耳を切り落としたのです。この時に、イエス様が止めなければ弟子たちはすべて殺されていたのかもしれませんが、でも、ペトロは本気でした。イスラエル国家の再建のために自分の命を捨てる覚悟があったのです。ここで実践しています。ここでイエス様がいわれたのが「ペトロよ。剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。」といわれたのです。こうやってイエス様は自ら出て行って、逮捕されて行きました。弟子たちは、この時にイエス様を見捨てて、皆逃げてしまいました。

イエス様が神のみもとに帰り、聖霊がくだって教会の活動が本格的に始まりました。しかし、

ユダヤ人の思いは変わることがありませんでした。教会が誕生してから、40年後に、ユダヤ人はローマ帝国に戦いを仕掛けていきます。いわゆるユダヤ戦争です。ユダヤ人の解放のために、多くのユダヤ人がエルサレムに集まり、ローマ帝国に戦争を仕掛けたのです。この結果、ユダヤ人は敗北します。多くのユダヤ人が殺され、捕虜となりました。勝敗ははっきりと見えていました。それでも一部の強硬派は、マサダに閉じ籠って戦いを続けて行きました。ユダヤ人の勝利を信じていたからです。マサダは天然の要塞でした。ローマ軍は直接に攻撃をすることができませんでした。そこで、ローマ軍は多くのユダヤ人の捕虜を使って、たくさんの土を盛って道をつくったのです。これに約2年かかったといわれています。マサダへの道ができて、攻撃をしようとローマ軍は攻めようとしてきました。しかし、そこには、多くの食料とたくさんの死体が残っていただけでした、ローマ軍が攻撃してくると分かったマサダに残っていた約1000人のユダヤ人は、ローマ軍の捕虜となるくらいなら死を選ぼうとして、集団自決の道を選んでしまったのです。ここには本当の悲劇があります。

今の戦争でも、多くの新しい武器がつけられて、敵との戦いに有利にしていこうとしています。いつまで、私たちは戦争を続けるのでしょうか。やがては、マサダの悲劇のようになってしまうのでしょうか。イエス様は十字架にかかって、神の愛を私たちに示してくださいました。「敵を愛しなさい。」(マタイ 5 : 44) どうか、私たちが平和をつくる者として、イエス様の愛によって、歩むことができ、世界の平和のために祈っていくことができる者でありたいと願います。



## 追悼

### 「H牧師との思いで」

Y・M姉

私が初めてH牧師ご一家にお会いしたのは、金城学院高校入学の時から礼拝に出席していた名古屋北教会でした。この時、ご子息のYさんは教会学校の幼稚科でとても活発に質問などをされる姿を原先生がニコニコと見守っておられたことを思い出します。



学校では、高校2年生の時から聖書科の授業で教えていただき、どのような時にも微笑んで静かにやさしく語って下さいました。

又、教会では主任牧師の柿沼敬一牧師ご不在の時には、礼拝説教も担当されて、教会の牧会を支えておられました。

教会修養会やバザー、教会学校でも共にいつでもご一家で出席されておられたことは、教会に集う者はひとつの家族として共に歩むことを思春期の私にとって心暖かく自然に学ばせて頂いたことでした。

夫と共に神様の御導きにより33年ぶりに瀬戸永泉教会でH牧師とYさんに再会させて頂いたことは本当に大きな驚きと感謝です。4年ぶりにお会いした時も昔と全く変わることのない静かでやさしいH牧師の笑顔に心暖かく包まれ本当にうれしかったです。

それから神様のもとに召される時まで、いつもYさんのことを心配されつつ、ご活躍の様子を本当にうれしそうにお会いする度に、にこやかな素敵な微笑と共に語っておられました。Yさんも言葉では言い尽くせない、さまざまな思いがあられたことを病床で共に静かに、そして熱く心の思いを伝えられ、大切な時を過されました。お二人の間には確かに、神様の深く大いなる御愛が注がれ包まれておられたことを強く教えていただきました。

これからもH牧師は、神様のみもとでやさしく熱くYさんを見守っておられることと信じています。教会で牧師として静かに力強く牧会を支え長きに渡り、若い魂にやさしく静かに熱きキリストの教えを伝えて下さったお働きに心より感謝の思いでいっぱいです。



### H牧師ご夫妻の思い出

M・H姉

以前、故H先生ご夫妻が入居されていた老人ホームミソノピアに、同じく入居されていた故N・K姉をお訪ねしていました。先生はよくホームの玄関脇の談話コーナーで新聞や本を読んでおられました。やって来る私の姿を見つけると、右手を軽く上げて写真と同じ笑顔で挨拶して下さいました。その時間は、目の見えない方への朗読ボランティアされていた奥様の妨げにならないよう配慮されてそこで過ごしておられたと思えました。朗読ボランティアは、聞きやすい発音や技術だけを求められるだけではなく、事前の準備や細心の配慮を必要とされていて、やりがいと苦勞の多いボランティアと聞きました。防音装置の無いご自宅での録音は、人の寝静まった、騒音の一番少ない早朝にされていたと聞きました。それでも猛スピードでホームに隣接する県道を走る車がありその音に常に悩まされていると奥様が漏らされた事を思い出しました。

先生は金城学院を辞された後、瀬戸市内に住まわれて隠退牧師として瀬戸永泉教会で礼拝を守られるようになりました。その後は折に触れ、説教をして頂きました。二年間の無牧時代から始まって、牧師の交代の節目の時や牧師休暇に説教をして頂きました。隠退牧師が教会に居て下さるといことは心強く恵まれた事でした。一番その事を痛感したのは、益牧師が突然心筋梗塞で入院されていた時の事です。教会員のご家族の葬儀の依頼が教会にありました。先生はその葬儀を快く引き受けて下さいました。枕辺の祈りと打ち合わせのために二人でご遺族のお宅に伺った時の事を思い出しました。無事、葬儀を終え、ご家族はとも感謝されていました。

先生の説教で一番心に残っているのは『自分を愛するように』と題してマタイによる福音書22章34～40節から頂いたみ言葉です。主を愛する事とは縦軸、人を愛する事は横軸。その両方の愛があって信仰が養われ、生きる力の源となるというような意味のお話だったように思います。私が、まだまだ未熟な信仰だった頃の事です。「イエスさまは大好きだけれど、人は嫌い」と言って教会を去った信仰の友がありました。その時、私は何も言えませんでした。しかし、その友とその時の先生の説教を一緒に聞きくことができたら、変わっていたかもしれないと悔やんだことを思い出します。

教会での最後の説教だと思います。奥様に感謝のお礼を伝えた時「Hの若い頃の説教はもっと良かった」と言われました。先生の一番の聞き手は奥様だったと確信しました。

## 教会婦人会連合の紹介

14622 単語

Y・T姉

2018年から5年間、愛知西地区教会婦人会連合の連絡員をしました。その間に当番教会、役員見習い、役員を務めました。

当番教会は連絡会年3回、イベント年3回の受付(準備を含む)のため、朝9時20分に会場に行きます。

役員は見習いを1年して本役員1年、合わせて2年間務めます。役員会は月1回、会議があり連絡会、研修会、世界祈祷日などの企画、準備、実行をします。

本役員の書記をしていた時は秋の研修会の辻順子教師の講演、質問を含めて2時間ほどのテープ起こしをしました。朝早く起きて2時間、神経を集中できる時間にしました。テープを巻いては巻き戻す作業に「こんな難しいことできない」と少しも進みません。4日目の夜、夢を見ました。5歳くらいの女の子が夕闇の中で「早く出たい。早く出たい」と泣きながら訴えるのです。その日から、何の抵抗もなく作業が進みました。その文字は14622単語となりました。

神は、夢を通して私に力を与えてくれたのです。振り返れば、5年の歳月はあっという間に過ぎたように思います。他教会の方々と知り合いになり、新しく献堂された教会をいくつか尋ねてパワーポイント動画を作ることができました。5年が過ぎ年齢による体力気力の衰えを感じ、辞退を決めました。お二人の方が引き継いで下さり感謝です。

婦人会連合は愛知西地区、中部教区、全国区そして世界と繋がる働きの組織です。信仰に支えられながらより良い働きができますように祈ります。

## 求道者紹介

N・Yさん

名古屋大学大学院人文学研究科に所属しています。

ご存じの方も多いと思いますが、私は2022年4月から研究のために永泉教会に通っています。人文学研究科では教授の下で研究の方向性やフィールドワークの方法などを学びつつ、文化人類学的思考を学んでいます。ゼミでは学部生と共に発表演習やフィールドワーク実習をしています。

研究の話になりますが、私は瀬戸永泉教会を題材にし、業界では希少な文化人類学的手法に基づくキリスト教コミュニティの実態について迫っています。世界的マジョリティが日本という小さな島国で極めてマイノリティであるという異質さに注目し、日本のキリスト教会独自の運営・社

会との関わり方・教会ならではの特殊性の三つの側面を調査しています。研究の鍵になるのは教会学校で、そこでは文化人類学で最も重要な「境界線の溶け合い」が起こっています。八月末にある韓国での発表から、今後の方針を固めていきたいと考えています。現在、ミッションスクールに注目しています。自分がミッションスクール出身だったからこそ分かるのですが、学歴競争が進むにつれ入学の倍率が上昇すると教育における本来あるべき「キリスト教精神」の教育が疎かになっている傾向があります。今後も日本のキリスト教業界にアプローチを続けていきますので、今後ともよろしくお祈りします。

## 讚美歌あれこれ

Y・N姉

時時に共感する賛美の詩あり、共なる主のお支えを想う。讚美歌Ⅱ273a 劣等感、死の恐れ、抛り所無い浮遊感、失恋もあり瀬戸に来て職訓への道筋に教会あり訪ねた。以前、聞いた言葉「友の為に命を捨てる事、是よりも大きな愛は無い。」一体何なのか、奥床しさに根気の無い者が教会に通って50年。勧められ受洗後も聖書の深い意味を悟れず、説教の言葉に抗い、我意を得たく願ひ図る有り様でした。子の不登校や自身の疾患等現れ、祈祷会に導かれ聖書の説き明かしを受け、祈れなかった日々を悔いる。ある時説教を聴き溜飲の下がる事あり、顔等の引け目も意識しなくなった。不安や悲しみ一杯の世に、喘ぐ者の叫びを聴き、共に居て必要な助けを与えて下さる、渴望していた真の友、イエス様の事と知りました。(ヨハネ)15:13 未信の夫が合唱指導に魅かれ教会へ同行出来て幸いです。腹式呼吸や発声方法を声量も音感も年も能力も様様ですが教えて頂きお交わり頂けて嬉しいです。体が楽器ですよと、高音はお尻を閉め喉を開いて筒の中を腹から脳天に送る感じで発声すると響く事等、楽しく体験したり、他者の音声を聴き共鳴する合唱に心地良さを感じたり、礼拝後の讚美歌練習に新来者も参加され和んだ。説教を聴き呼応する様に賛美と祈り、礼拝の恵みに安らぐ。讚美歌(21)356



## 夏のつどい報告

小椋 実央牧師

7月29日(土)と8月13日(日)に夏のつどいが行われました。前半は学童向けで参加者が11名、後半はふだんからCSにきている子ども向けで参加者は12名、どちらも予想を超える参加者の多さに驚きつつ、喜びと心地よい疲れのうちに終えることができました。感謝をもって報告させていただきます。

特筆すべきことはこれまで年1回、クリスマスのみであった学童との交流を、昨年より年3回(イースター、夏休み、クリスマス)としましたが、毎回たくさん子どもたちが参加していることです。改めて学童の指導員の方々、また子供たちを送り出してくださっている保護者の方々のことも祈りに覚えたいと思います。また後半のCS向けの夏のつどいに関しては、直前になって参加を決めてくださった方や久しぶりにCSに来てくれた生徒、CSの生徒自身が自ら友達を誘ってくれたケースもありました。教会学校というものは「いつも」、「誰でも」来ることができて、「何か楽しいことをやっついそうだな」と思ってもらえることが大事なのだな、と考えさせられました。

幸い「何か楽しいこと」を考えることが得意な教師たちに恵まれて、CS教師会は苦しみつつですがいつも良いアイデアに溢れています。今回はぶんぶんゴマづくりと万華鏡づくりに挑戦しました。子どもよりも教師の方が楽しんでいるようでもあります。これからも子どもたちと楽しんでいきたいと思えます。



## 聖書豆知識

四つの福音書 小椋 実央牧師

繰り返しになりますが、私は中学生に聖書を教えています。聖書と出会ってまだ二、三年の子どもの視点の視点は瑞々しく、自分が教会に行き始めた頃、洗礼を受けたばかりの頃のことを思い出させてくれます。数ある質問の中でよく聞かれるのが「なぜ福音書は四つあるのか」ということ。信仰者にとって福音書が四つあるのが当たり前ですが、似たようなことが書いてあるのだし、別に一つでもいいじゃない? というのが彼女たちの持論です。

そこで少し授業を脱線して聖書成立の歴史を紐解いていくわけですが、結論から言うと始めから福音書を四つにしようとしていたわけではなく、数ある福音書の中から選んだ結果たまたま四つになってしまった、というほうが事実に近いということ。こういう話はテストには出しませんから、と言っているのに、なぜか卒業しても覚えていてくれるのも微笑ましい一コマだったりします。

福音書を四つ選んだ時の基準はいくつかあるものの、文章の巧みさや読み応えなどは重視されずに「その福音書が信仰の養いになるかどうか」が重んじられました。だからマルコとヨハネにクリスマス話がなくても、イエスさまの少年時代の話が少なくても、ヨハネには最後の晩餐ではなくかわりに洗足の話が書かれていることも、全て信仰の糧として意味があることなのだ、ということが分かります。料理に舌鼓を打つように四つの違いをこれからもお楽しみください。

=編集後記=

まだまだ残暑が続いています。今年も各地で台風や大雨による被害がありました。さまざまな被害を受けられた方々に主の慰めと励ましをお祈りいたします。新型コロナウイルスの感染問題の鎮静化?され教会では新しくなった会堂、増築棟等で伝道のために催し物が開催されています。私たちの歩みに神様の守りと励ましを祈っていきましょう。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございました。アーメン K・R

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 瀬戸市杉塚町5

電話、FAX: 0561-82-2314

ホームページ: [瀬戸永泉教会](#)で検索または⇒

